

お知らせ

●診療科の取組案内1…**歯科口腔外科** ●診療科の取組案内2…**放射線診断科**
 ●Topics1…モンテディオ山形の選手と入院中の子供たちとの交流イベントを開催 ●Topics2…多田知史さんから絵画が寄贈されました

山形大学医学部附属病院の最新の医療を紹介する広報誌VOL.9が出来上がりました。これを機会に当院の医療を知っていただき、地域のリソースとして有効に活用していただければと思います。

診療科の取組案内 1 歯科口腔外科

当科では、口腔癌、顎変形症、口唇口蓋裂、顎骨再建などのメジャーサージェリーから、歯槽骨再建・造成、デンタルインプラントなどのマイナーサージェリーまで、口腔のあらゆる手術に対応できる経験と実績を有しております。

〈顎骨再建、歯槽骨再建・造成、デンタルインプラントによる咬合再建〉

顎にできた腫瘍や外傷により顎の骨が欠損してしまった場合に、様々な方法を使って顎の骨を再建します。さらに顎の骨を作るだけでなく、デンタルインプラントを再建した骨に応用することで、失われた咬合機能を取り戻します。これらの顎骨再建、デンタルインプラントによる咬合再建は、全国的に見ても随一の症例数を誇ります。腫瘍や外傷などの疾患により顎骨を失った方には、デンタルインプラントが保

険適用になる場合があります。ぜひお気軽にご紹介・ご相談ください。一般的なデンタルインプラントも県内ではトップクラスの症例数を有しております。またデンタルインプラントを埋入したいが、埋入する骨がなくてあきらめている症例があれば、ぜひ当科に歯槽骨造成等のご依頼をいただければと思います。



下顎骨欠損腸骨再建



下顎骨再建後のインプラントによる咬合再建

〈口腔癌・口腔腫瘍〉

口の中にも癌をはじめとした様々な腫瘍ができます。特に口腔癌は、院内の様々な専門家と合同で話し合いを行うことで、現時点での最適な治療方針を決定し(カンサートリートメントボード)、治療を行います。また「口腔癌になりかかっている病変」は、診断が困難です。私たちはこれまで口腔癌だけでなく、様々な口腔粘膜病変を診断・加療してまいりました。口の中に通常の口腔粘膜とは異なる「何か」がある場合は、ぜひ当科にご紹介をいただければと思います。

〈顎変形症〉

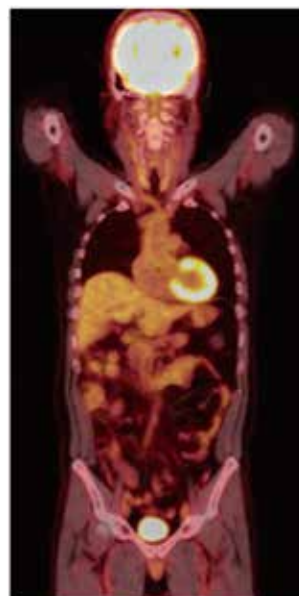
顎の変形に伴うかみ合わせの悪さに対して、手術により最適なかみ合わせをつくります。この場合は、通常は保険適用外である歯列矯正も保険適用になります。「顎がまがっている」「下あごが出ている」「上あごがへこんでいる」などで困っている患者様をぜひ当科にご紹介ください。当科は山形県内で随一の顎変形症手術症例数を誇っております。

山形大学医学部附属病院PETセンターをご活用ください！

山形大学医学部附属病院PETセンターではFDG-PETを中心にPET-CT検査が行われています。悪性腫瘍や炎症巣は正常の組織より糖代謝が活発であるため、ブドウ糖の類似物質であるFDG（フルオロデオキシグルコース）の取り込みを見ることでより詳細な悪性腫瘍の診断が可能です。PET-CT検査1回あたりの被ばく量は、通常のCT検査の被ばく量を同程度です。これは人体に影響が出る被ばく量ではないので、心配ありません。

保険適応は**早期胃がんを除く全ての悪性腫瘍および悪性リンパ腫**（他の画像診断により病期診断、転移、再発診断ができない時）、**てんかん**（外科手術のための病巣診断）、**虚血性心疾患**（バイパス手術後のための心筋バイアビリティの診断）、**心サルコイドーシス**の診断になります。この度、新たに**高安静脈炎**または**巨細胞性動脈炎**（すでに大型血管炎と診断のついている患者さんで、他の検査で病変の局在又は活動性の判断のつかない場合）が保険適応になりました。

当院では放射線診断専門医がその日のうちに読影し、速やかに結果を郵送しています。検査の詳細や適応などご不明な点は当院PETセンターに遠慮なくご質問ください。正しい診断のため、これまで以上にPET-CTをご活用いただけますよう、よろしくお願いします。



当院のPET-CT画像

Topics1

モンテディオ山形の選手と入院中の子供たちとの交流イベントを開催しました



モンテディオ山形の選手を囲んで 小児病棟のスタッフと

平成30年12月14日（金）、モンテディオ山形の栗山直樹選手と山田拓巳選手が山形大学医学部附属病院の小児科病棟を訪問しました。ユニフォーム姿で登場した二人は自己紹介のあと、リフティングなどを披露し、子供たちは大感激。また、怪我をした時の心境や家族の支え、そしてどう乗り越えたのかを話してくれました。サインや記念撮影、サッカー以外の質問にも終始笑顔で応じ、子供たちはもちろんのこと、ご家族や病院スタッフもとても喜んでいました。

イベント後に栗山選手は「自分たちのことがまだよくわからない子供たちが、将来写真を見返した時に、すごいことだったと思ってもらえるような選手、チームにならなければならない。これから僕たちも頑張っていきたい」と話していました。

Topics2

多田知史さんから絵画が寄贈されました

この度、山形市在住の画家、多田知史（たださとし）さんから、山形大学医学部附属病院に対し、絵画寄贈の申し出をいただき、12月26日（水）、病院長室にて多田さんが制作された絵画5作品が寄贈されました。

多田さんは、寄贈のきっかけについて「お見舞いで病院に足を運んだ際、2階の渡り廊下に絵が掛けてあることを知り、これも何かのご縁、自分の作品も誰かの癒しになればと感じた」と話していました。

寄贈を受けて根本建二病院長からは「温かい絵で患者さんの助けになる。病院から重粒子線がん治療施設を繋ぐ50メートルの渡り廊下もできるので、様々なところでの展示を企画させていただきたい。大変素晴らしい作品を本当にありがとうございます」と感謝の気持ちが伝えられました。



根本建二附属病院長（左）と多田知史さん（右）